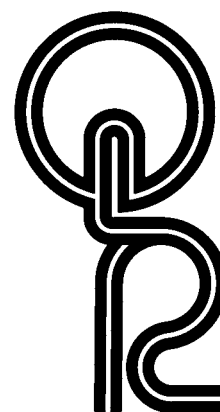


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 29 No.3, 2022



喜界島スギラビーチに漂着した軽石。2021年8月に福徳岡ノ場で噴火が発生し、海域へ放出された軽石が10月～11月に南西諸島に大量漂着した。漂着した軽石は波の跡に沿って何列も分布し、高潮位線付近では一部舌状に分布する。写真奥には完新世のサンゴ礁段丘が見える。2021年10月17日撮影。(平峰玲緒奈)

Vol. 29 No. 3

June 1, 2022

2022年大会案内(第4報)..... 2	第3回評議員会案内..... 10
第2回評議員会議事録..... 5	会員消息..... 11

◆日本第四紀学会 2022年大会案内(第4報)

本大会は、一般研究発表(口頭及びポスター)、公開シンポジウム、巡検を中心に、静岡県地震防災センターを会場として開催します。開催方法は、公開シンポジウム(参加費無料)を対面とオンラインのハイブリッドで開催し、一般研究発表(口頭及びポスター)は完全対面で実施予定です。なお、新型コロナウイルスの感染状況によってすべてを完全オンラインに変更する場合があります。講演申し込み等につきましては、昨年と同様の申し込み手続きを進めます。

1. 開催場所：静岡県地震防災センター

〒420-0042 静岡市葵区駒形通5丁目9番1号

<https://www.pref.shizuoka.jp/bousai/e-quakes/info/index.html>

8月26日(金) 一般研究発表(口頭及びポスター、対面)

27日(土) 一般研究発表(口頭及びポスター、対面)、総会

28日(日) 午前：公開シンポジウム(対面もしくはハイブリッド)

午後：巡検(Aコース：ミュージアムバックヤード見学、Bコース：熱海市伊豆山地区土砂災害)

※コロナウィルスの感染拡大により、完全オンラインとなる場合

8月26日(金) 一般研究発表(口頭及びポスター) オンライン

27日(土) 一般研究発表(口頭及びポスター) 総会 オンライン

28日(日) 公開シンポジウム・オンライン 巡検なし

開催方法は6月末までに決定します。

2. 各種締切日

- ・一般研究発表の申し込み・講演要旨原稿提出締め切り：7月8日(木) 17時
- ・公開シンポジウムの講演要旨原稿提出締め切り：7月8日(木) 17時
- ・巡検参加申し込み締め切り：8月9日(火) 17時
- ・参加申し込み締め切り：8月19日(金) 17時
- ・プログラム公開：7月29日(金) (予定)

3. 申し込み方法

参加申し込みは、大会専用サイトから申し込んで下さい。大会専用サイトは準備ができ次第、学会メーリングリスト等で周知します。

4. 大会参加費

◎大会参加費：2000円(会員・非会員を問わず)。会場受付でお支払いください。ただし、大学院生は1000円、70歳以上の会員、学部学生は無料です。

講演要旨集：今回は冊子は作成せずPDFによる配布とする予定で、参加者は無料でダウンロードできます。

5. 開催日程

8月26日(金) 一般研究発表(口頭及びポスター)

受付 9:00～

一般講演 9:15～11:45 ないふるホール

ポスターショートトーク 11:45～12:10 ないふるホール

ポスターコアタイム 13:00～14:30 多目的スペース

一般講演 14:30～16:45 ないふるホール

8月27日(土) 一般研究発表(口頭及びポスター) 総会 懇親会

受付	9:00～	
一般講演	9:15～11:45	ないふるホール
ポスターショートトーク	11:45～12:10	ないふるホール
ポスターコアタイム	13:00～14:30	多目的スペース
一般講演	14:30～15:30	ないふるホール
総会	15:30～16:45	ないふるホール

8月28日(日)公開シンポジウム(一般市民を対象)

受付	9:00～	
公開シンポジウム	9:15～12:45	ないふるホール

休憩・昼食室：大研修室、学会本部：小研修室

6. 公開シンポジウム「伊豆衝突帯とその隣接地域における大規模自然災害(仮)」

趣旨：伊豆弧は、フィリピン海プレートの北進に伴い、約200～100万年前に本州へ衝突し、伊豆衝突帯が形成された。衝突は現在も続いているので、伊豆半島やその周辺には北伊豆断層帯や富士川河口断層帯などの多くの活断層があり、地殻の変形で急峻な山岳地域が形成されている。そのため、伊豆衝突帯では内陸型地震、土砂災害が頻繁に起きている。また、伊豆弧は火山弧であるため、伊豆東部火山群、富士山、箱根火山による火山災害も起きており、1989年には伊東沖で噴火が起き、手石海丘を形成した。一方、南海トラフ・駿河トラフでは約100～150年間隔で、相模トラフでは約200～400年間隔で海溝型巨大地震が発生し、その度に大津波が南海トラフ・伊豆弧・相模トラフの沿岸域に被害をもたらした。そのため、1978年には東海地震の予知情報を基にした大規模地震対策特別措置法が制定されている。一方、2011年に起きた東北地方太平洋沖地震とそれに伴う巨大津波による激甚災害が発生し、それを教訓に、国は2012年に南海トラフで起こる海溝型地震の想定を見直し、あらゆる可能性を考慮した最大クラスのマグニチュード9程度の南海トラフ巨大地震・津波(レベル2地震・津波)の被害予測を公表した。この予測は、南海トラフ沿いの沿岸地域の社会に多大な影響を与えている。さらに、2021年に熱海市で盛土の崩落に関係した土砂災害が発生し、新たな社会問題となっている。このように伊豆衝突帯とその隣接地域は、地殻変動・火山活動が活発であり、それらの研究が2011年の東北地方太平洋沖地震以降に盛んに行われている。そこで、静岡大会では、伊豆衝突帯とその隣接地域における地震、火山活動、地殻変動、土砂災害に関する最新研究成果を学会内外の専門家から提供いただき、活動縁辺域の大規模自然災害についての理解を深めたい。ふじのくに地球環境史ミュージアム共催。

プログラム(仮)

9:00-9:10	趣旨説明	北村晃寿
9:10-9:50	宇宙測地学と伊豆・富士山周辺の地殻変動(仮)	三井雄太
9:50-10:30	火山噴火におけるマグマのダイナミクスと富士山・伊豆東部火山群(仮)	石橋秀巳
10:30-10:45	休憩	
10:45-11:30	南海トラフ東部の古津波・古地震について(仮)	藤原 治
11:30-12:15	土石流の発生メカニズムについて(仮)	今泉文寿
12:15-12:30	質疑応答	

7. 巡検

Aコース：ふじのくに地球環境史ミュージアム

担当者 西岡・中西 14:00～16:00 静岡駅からミュージアムまで公共バスで移動 ミュージアム解散

Bコース：熱海市伊豆山地区土砂災害

担当者 北村 静岡駅→熱海駅 2時間の観察 熱海駅で解散

8. 大会実行委員会および行事委員会

大会実行委員長：北村晃寿(静岡大)

実行委員：中西利典、西岡佑一郎(以上、ふじのくに地球環境史ミュージアム)

2022年大会案内 (第4報)

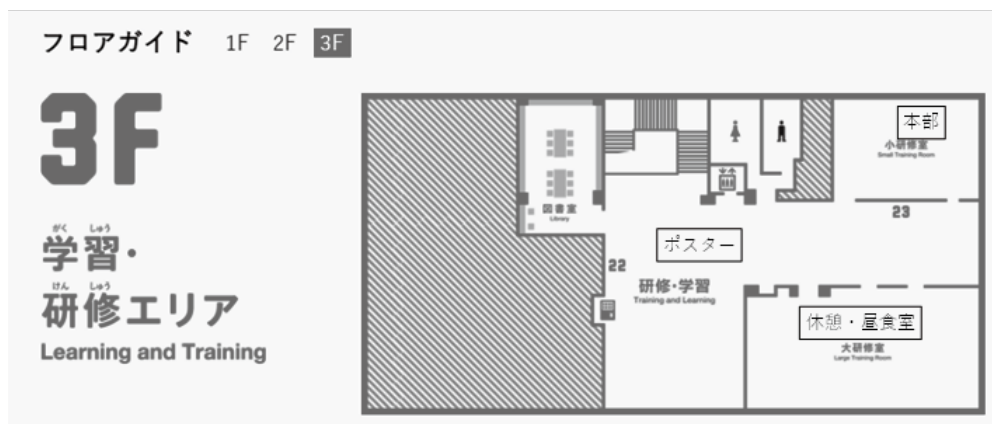
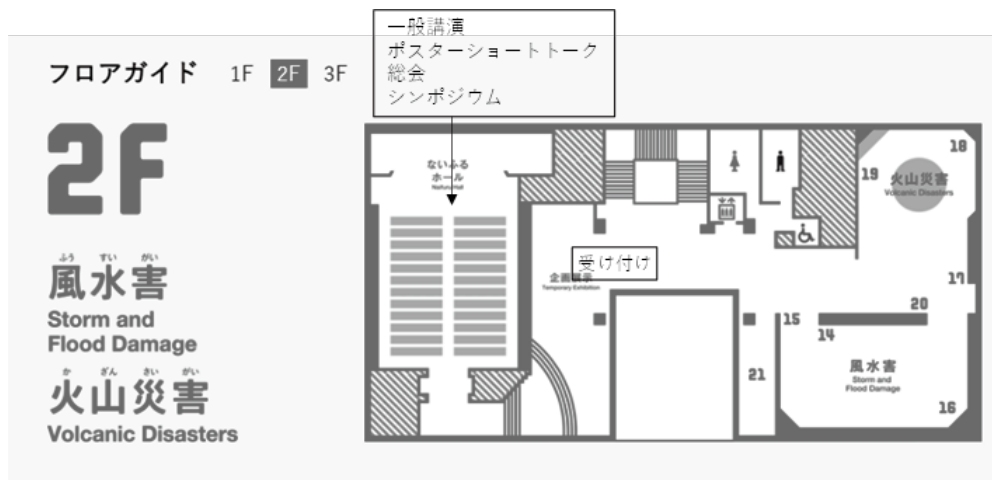
行事委員会：工藤雄一郎 (委員長)、池原 実 (高知大)、箱崎真隆 (歴博)、奥野 充 (大阪公立大)、目代邦康 (東北学院大)

連絡先：2022年大会実行委員会事務局

〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836 静岡大学大学院理学研究科 北村晃寿

TEL：054-238-4798、メール：kitamura.akihisa(at)shizuoka.ac.jp (atを@に変える)

会場案内



◆日本第四紀学会 2021 年度第 2 回評議員会議事録

日 時：2022 年 3 月 23 日（水） 9:00～12:10
方 法：Zoom を用いたオンライン会議

換が行われた。議事終了後、須貝俊彦副会長の挨拶で評議員会は閉会となった。

出席者：鈴木毅彦（会長）、北村晃寿（副会長）、須貝俊彦（副会長）、以下評議員、久保純子（議長）、オブラクタ スティーブン フィリップ、久保田好美、加 三千宣、坂下 渉、田村 亨、吾妻 崇、苅谷愛彦、佐藤善輝、丹羽雄一、堀 和明、青木かおり、卜部厚志、菅沼悠介、兵頭政幸、水野清秀、井上 淳、江口誠一、海部陽介、齋藤めぐみ、高原 光、中塚 武、那須浩郎、石原与四郎、目代邦康、山田和芳
委任状：7 通（議長委任）
オブザーバー出席：齋藤文紀（会長経験者）

水野清秀庶務委員長の司会で、鈴木毅彦会長の挨拶に続き、定足数の確認を行い、久保純子議長のもと、議事が進行された。2021 年度事業中間報告では、担当の各委員長、領域代表など（欠席の場合は代理の評議員）からそれぞれの報告が行われた（資料 1）。また、2021 年度会計中間報告では、齋藤めぐみ会計委員長から会計資料（資料 2）を基に説明が行われた。審議事項 1 の「第四紀研究執筆要項」改訂案（資料 3）については、苅谷愛彦編集委員長から、研究評価に関するサンフランシスコ宣言、特に「責任あるオーサーシップの慣行と各著者個別の貢献についての情報提供を促すこと」を受けて、論文に著者貢献の記述を加えることの説明がなされ、賛成多数で承認された。審議事項 2 の寄付金の取扱い等に関する内規の提案については、齋藤会計委員長から説明が行われ、これまで寄付金に関する規約が整備されていなかったため、寄付金申込書や受領書の案とともに内規案が示された。しかし、本会では贈与税あるいは相続税に関して寄付金控除がないことを関係書類に示す必要があるという指摘があり、修正案を執行部会で検討し、再度提案することにした。そのほか、学会賞・論文賞候補者等の選考答申及び名誉会員・功労賞候補者の選考答申期限を 5 月 31 日にすること、「デジタルブック最新第四紀学」CD の在庫がなくなったことを受けて改訂・HP などでの公開あるいは 70 周年記念として新しい出版物を出す可能性、学術会議が推進している「持続可能な発展のための国際基礎科学年」での本会の取り組み、会費長期滞納者の扱い、会費納入・論文投稿・大会参加などのオンラインシステム導入への検討を行っていること、等について意見交

【資料 1】

2021 年度事業中間報告（2021 年 8 月 1 日～2022 年 3 月中旬までの経過）

1-1 庶務委員会（委員長：水野清秀）

(1) 総会(2021 年 8 月 28 日)、第 1 回評議員会(2021 年 8 月 26 日)、執行部会(第 1 回:2021 年 8 月 26 日、第 2 回:10 月 15 日、第 3 回:12 月 15 日、第 4 回:2022 年 2 月 24 日) を Zoom を用いたオンライン会議として開催した。

(2) 入退会の申し出への対応を行い、会員名簿の管理を行った。2022 年 2 月 22 日時点での会員数は以下の通りである。

正会員 956 名（うち学生会費適用者 16 名）、賛助会員 9 社、名誉会員 17 名。

逝去：佐々木悠二会員、糸魚川淳二名誉会員、吉田英嗣会員

(3) 2021 年大会若手学生発表賞選考委員会を立ち上げて、同賞受賞者の選考を行った。

(4) 2022 年学会賞・学術賞・若手学術賞・論文賞の受賞候補者の推薦募集（締め切り：2022 年 2 月 28 日）を第四紀通信・HP 及び会員 ML を通じて行った。前 3 賞の推薦書は学会賞選考委員会へ、論文賞の推薦書は論文賞選考委員会へ送付し、選考作業の依頼を行った。名誉会員候補者及び会員の功労賞受賞候補者の年齢 70 歳以上・会員歴 20 年以上の該当者リスト等を作成し、名誉会員候補者選考委員会に提出して、選考作業の依頼を行った。

(5) 転載許可申請に関する業務を行った(4 件承認、著者による転載報告 1 件、対応中 1 件)。

(6) シンポジウム等の共催・後援に関連する業務を行った（共催：第 31 回社会地質学シンポジウム、後援：学術フォーラム「地球環境変動と人間活動」、第 26 回震災対策技術展、第 36 回地質調査総合センターシンポジウム「3 次元で解き明かす東京都区部の地下地質」）。

1-2 会計委員会（委員長：齋藤めぐみ）

(1) 2021 年大会に関する費用、業務委託費第 1 回請求分などの清算を行った。2021 年大会収支は、収入として大会準備金 380,000 円、支出として、アルバイト代 96,200 円（+ 振込手数料 1,100 円）、Zoom 大規模ミーティング 7,370 円（+ 振込手数

料 220 円)、Zoom クラウドストレージ 1,533 円 (+ 振込手数料 220 円)、Zoom オンラインストレージ 3 か月分 17,820 円 (+ 振込手数料 165 円) の合計 124,628 円で、残金 255,372 円は雑収入に計上した。
 (2) 会費の決済システム、論文投稿システム、大会参加登録システムなどのオンライン化に関して、見積もりをとって会計委員会・執行部会で検討を行った。
 (3) 故糸魚川淳二名誉会員のご遺族から寄付金の申し出があった。寄付金取扱いの方法などについて規約がないため、検討を行い、内規案を評議員会にて提案することにした(審議事項 2)。
 (4) 2021 年度中間報告を取りまとめた(資料 2:2021 年度会計中間報告参照)。

1-3 編集委員会 (委員長: 荻谷愛彦; 水野庶務委員長の代読)

(1) 第四紀研究第 60 巻 3 号(受賞記念論文 1 編、口絵 1 編、書評 1 編)、4 号(論説 1 編)を刊行した。第 60 巻の総頁数は 87 頁である。また第 61 巻 1 号(受賞記念論文 1 編、論説 1 編)を刊行した。受理済み論文については、順次 J-SAGE にて早期公開を行った。
 (2) 2022 年 3 月 5 日現在の手持ち原稿(書評を除く)は受理前 9 編、受理済 7 編(うち 3 編は早期公開済みであり、冊子体として第 61 巻 2 号、3 号で配布予定)。これらとは別に、2016 年千葉大会シンポジウム領域 2 特集号その 2、2021 年遠隔シンポジウム「陸域アーカイブから読む環境変遷と巨大災害: 防災・減災に向けて」特集号、2021 年大会シンポジウム「近畿における歴史時代の自然環境」特集号の投稿原稿受付を始めた。
 (3) カラー印刷等の希望欄を追加した新送り状を投稿規定に入れ、学会ホームページで公開するとともに第四紀研究第 61 巻 1 号に掲載した。
 (4) 研究評価に関するサンフランシスコ宣言、特に、「責任あるオーサーシップの慣行と各著者個別の貢献についての情報提供を促すこと」をうけて、「第四紀研究」に各著者個別の貢献の記載を行うことにし、評議員会にて執筆要項改訂案を提示することにした(資料 3 参照)。
 (5) 編集書記用パソコンが経年劣化したため、2022 年 2 月にノート型パソコンと関連ソフトを購入した。データ移行等が終了したら、古いパソコン内のデータを完全抹消し、適切に処分することにした。
 (6) 「第四紀研究」の発行・発送を「第四紀通信」と同時として 2023 年から実施することで調整中である。
 (7) 編集委員会を 8 回(2021 年 8 月 28 日、10 月

1 日、10 月 4 日、10 月 7 日、10 月 16 日、11 月 4 日、2022 年 1 月 14 日、2 月 28 日)開催した。

1-4 広報委員会 (委員長: 那須浩郎)

(1) 「第四紀通信」の編集および学会ホームページ、メーリングリストの維持管理を行った。
 (2) 「第四紀通信」第 28 巻 5、6 号、第 29 巻 1 号を編集し、発行した。表紙写真は各領域から順に提供してもらうことにした。
 (3) 上記「第四紀通信」各号の電子版(PDF 版)を、それぞれ発行前月の下旬に日本第四紀学会ホームページに掲載した。また、電子版では表紙写真はカラー掲載可能とした。
 (4) 日本第四紀学会ホームページを通じて広報、情報提供等を行った。
 (5) 日本第四紀学会会員メーリングリストを通じて広報、情報提供等を行った。2021 年度の配信件数は 3 月 19 日時点で 65 件(#1353 ~ 1417)。
 (6) 「第四紀通信」の発行を 2023 年から「第四紀研究」に合わせて年 4 号とし、発行月を 2、5、8、11 月とすることで評議員会・総会に提案準備中である。

1-5 行事委員会 (委員長: 工藤雄一郎; 水野庶務委員長の代読及び北村大会実行委員長による 2022 年大会の説明)

(1) 日本第四紀学会 2021 年大会を 2021 年 8 月 27 日(金) ~ 29 日(日)にオンラインで開催した。27、28 日の一般研究発表は、口頭発表 28 件、ポスター発表 22 件であった。また、28 日午後には総会と授賞式が行われた。29 日午前には公開シンポジウム「近畿における歴史時代の自然環境」が開催され、7 件の講演があった。また 29 日午後には北村晃寿会員による学術賞受賞記念講演「貝化石・有孔虫化石の複合群衆解析による日本列島の島嶼化過程および東海地震の履歴の研究」が行われた。参加者は 27 日が約 280 名、28 日が約 230 名、29 日が約 180 名であった。さらに三田村宗樹会員(大会実行委員長)によるオンライン巡検「大阪の津波碑と地盤沈下地帯」の配信が行われた。
 (2) 2021 年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞記念第 1 回講演会を 2022 年 2 月 12 日(土) 10:00 ~ 12:00 にオンラインで開催した。講演は、学術賞受賞者の中塚 武会員による「気候変動の周期性と新しい人類史研究の可能性—樹木年輪の酸素同位体比が示唆するもの」と田村糸子会員による「中央日本における鮮新 - 更新世の広域テフラ編年とその意義」である。170 名以上の事前登録があったが、100 名までの設定になっていたことに開始時間後まで気が付かず、参加できなかった登録者

には、録画配信で対応することになった。

(3) 2021年日本第四紀学会学会賞・学術賞第2回講演会を2022年6月4日(土)10:00～12:00にオンラインで開催する予定で準備を進めている。

(4) 2022年大会を2022年8月26日(金)～29日(月)に静岡県地震防災センターを会場として開催する予定で準備を進めている。開催方法は完全対面、ハイブリッド、完全オンラインのいずれかの方法で、社会的な状況を見て判断する。28日の公開シンポジウムは「伊豆衝突帯とその隣接地域における大規模自然災害」(仮)で、4件の講演を予定している。一般研究発表は口頭発表とポスター発表で、筆頭発表者(会員に限定)としてそれぞれ一人1件までとする。巡検についても予定しているほか、普及講演は検討中である。

1-6 渉外委員会(委員長:山田和芳)

(1) 日本地球惑星科学連合(JpGU)関係
JpGU学協会長会議が2021年11月29日(月)に開催され、鈴木会長が参加した。2022年大会(5月27日～6月3日)のセッションとして『第四紀:ヒトと環境系の時系列ダイナミクス』は総数18講演(口頭9、ポスター9)、共同開催『活断層と古地震』は総数18講演(口頭8、ポスター10)となり、どちらもコマ数2を維持できている。今後、プログラム編成や座長割り当てを行い、3月下旬に全プログラム公開となる。

(2) 防災学術連携体関係
第6回防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)が2021年11月6・7日に開催され、シンポジウム「防災教育と災害伝承への多彩な視点ー東日本大震災から10年を経てー」(オンライン)で、第四紀学会からは西山賢一会員(徳島大)が講演を行った。シンポジウム参加者は390名であった。2022年5月9日開催予定のシンポジウム「自然災害を取り巻く環境はどう変化してきたか」に第四紀学会からは鈴木克明会員(産総研)が「福井県水月湖年縞堆積物から読み解く完新世後期の災害史」というタイトルで発表予定である。

(3) 自然史学会連合関係
自然史学会連合の総会が2022年1月10日(月・祝)にオンラインで開催された。百原 新委員が参加した。

1-7 領域1「気候変動及び海洋の諸プロセス」(領域代表:田村 亨)

(1) 2021年9月22日に別府湾チームがAnthropocene Working Group(AWG)のワークショップオンラインに参加した。加 三千宣会員が別府湾GSSPのプロポーザルを発表した。今

後GSSP審査に必要なデータのレビューを各チームがAnthropocene Reviewに投稿、AWG内でのGSSP選定の投票が2022年内に行われる予定である。

(2) 金沢大学(先魁プロジェクト「海洋底掘削による環境変動/海洋プレート国際研究拠点の形成」と第四紀学会との共催で、古海洋に関する国際ミニシンポジウム“Proxy for Paleotemperature Reconstruction: a key to understanding the past climate change”を2021年12月9日(木)にオンラインにて開催した。

1-8 領域2「陸上の諸プロセス」(領域代表:堀和明;佐藤評議員による代読)

(1) 2021年7月24日・25日に開催した共催遠隔シンポジウム「陸域アーカイブから読む環境変遷と巨大災害:防災・減災に向けて」の内容を第四紀研究特集号とする準備を開始した。投稿予定数は18編である。

1-9 領域4「人類と生物圏」(領域代表:海部陽介)

(1) オンラインー大阪大会での公開シンポジウム「近畿における歴史時代の自然環境」を企画し、開催した。

1-10 特別委員会・オンライン委員会(委員長:久保田好美)

(1) 学会の事務作業の効率化を進めた。スラックとグーグルドックス(オンライン共有システム)。
(2) ズームアカウントの管理を行った。大規模ミーティングオプションを年間ライセンスとして購入したい(追加年間請求額:80,400円。現在はズームの100人までのミーティングで20,100円)。

1-11 特別委員会・顕彰規程等に関する検討委員会(委員長:池原 研;高原副委員長による説明)

(1) 2021年9月26日に第1回会議をオンラインで開催し、委員長に池原委員、副委員長に高原委員が互選された。また、水野庶務委員長がまとめた「顕彰規程等の見直しに関する検討委員会設置の経緯と位置づけ」に基づき本委員会の審議内容を確認した。委員間で情報を共有して、今後、委員会としての結論を2022年5、6月頃の評議員会、あるいは8月の大会を目指して審議を進める。

1-12 INQUA等国際機関関係報告(鈴木毅彦会長)

(1) 国際土壌科学連合(IUSS)の役員選出への日本第四紀学会としての対応を検討し、会員からの意見を募集して候補者の推薦を行った。

【資料 2】2021 年度会計中間報告

2021年度収支中間会計報告
(2021年8月1日～2022年1月31日現在)

収入の部						(単位：円)
科 目	予 算 額 ①	1月31日現在②	増 減 ② - ①	執行率②/①	摘 要	
会費収入	8,772,000	7,834,644	-937,356	89.3%		
正会員会費収入	8,572,000	7,634,644	-937,356	89.1%	通常会員会費7,525,000円 学生会員会費60,000円 海外会員会費49,644円	
賛助会員会費収入	200,000	200,000	0	100.0%	20,000円×9社(10口)	
誌代	700,000	264,704	-435,296	37.8%	定期雑誌購入、Back No	
別刷代・超過頁代収入	250,000	146,120	-103,880	58.4%	60巻3号～4号 別刷・カラー代等	
雑収入	150,000	392,351	242,351	261.6%	デジタルブック(14,000円)、2021オンライン大会残金(255,372円)、JST等	
利子収入	1,000	56	-944	5.6%	預金利息	
広告料収入	0	0	0		2021年大会予稿集広告無しの為	
役員選挙積立金取崩収入	0	0	0			
INQUA対策積立金取崩収入	0	0	0			
名簿作成積立金取崩収入	150,000	150,000	0	100.0%	名簿作成積立金取崩(マイページ機能より不要の為)	
予備費積立金取崩収入	0	0	0			
収入合計	10,023,000	8,787,875	-1,235,125	87.7%		
前期繰越金	20,288,031	20,288,031	0	100.0%		
合計	30,311,031	29,075,906	-1,235,125	95.9%		

支出の部						(単位：円)
科 目	予 算 額 ①	1月31日現在②	増 減 ② - ①	執行率②/①	摘 要	
会誌発行費	3,101,200	675,510	-2,425,690	21.8%	第四紀研究 60巻3号～4号	
印刷費	1,500,000	647,570	-852,430	43.2%		
編集費	300,000	0	-300,000	0.0%	※年度末精算	
編集人件費	1,201,200	0	-1,201,200	0.0%	※年度末精算	
別刷印刷費	100,000	27,940	-72,060	27.9%		
会誌・会報発送費	600,000	286,678	-313,322	47.8%	第四紀研究 60巻3号～4号、第四紀通信 28巻4号～6号	
会報発行費	785,000	447,441	-337,559	57.0%	第四紀通信 28巻4号～6号	
印刷費	500,000	278,410	-221,590	55.7%		
編集費	75,000	72,831	-2,169	97.1%	第四紀通信編集費	
編集人件費	210,000	96,200	-113,800	45.8%	第四紀通信編集アルバイト代	
学会HP運営費	170,000	58,582	-111,418	34.5%	HP更新アルバイト代	
大会運営準備金	380,000	0	-380,000	0.0%	2022年大会運営準備金	
巡検準備金	100,000	0	-100,000	0.0%	2022年大会分	
講演会・シポジウム費	50,000	0	-50,000	0.0%		
予稿集印刷費	0	0	0			
学会賞等顕彰費	320,000	294,754	-25,246	92.1%	学会賞等賞状作成費、若手学術賞・奨励賞副賞	
会議費	60,000	0	-60,000	0.0%		
通信費	380,000	113,438	-266,562	29.9%	会費請求書送付費、事務通信費等	
旅費・交通費	100,000	3,458	-96,542	3.5%	会計監査会交通費	
印刷費	350,000	153,896	-196,104	44.0%	学会専用封筒、コピー代	
業務委託費	2,400,000	1,045,000	-1,355,000	43.5%	事務委託費(第1回概算)	
領域活動費	750,000	0	-750,000	0.0%		
領域1	150,000	0	-150,000	0.0%		
領域2	150,000	0	-150,000	0.0%		
領域3	150,000	0	-150,000	0.0%		
領域4	150,000	0	-150,000	0.0%		
領域5	150,000	0	-150,000	0.0%		
INQUA対策費	0	0	0			
役員選挙費	0	0	0			
名簿作成費	—	—				
INQUA対策積立金繰入支出	0	0	0			
役員選挙費積立金繰入支出	200,000	0	-200,000	0.0%	※年度末精算	
名簿作成積立金繰入支出	—	—				
予備費積立金繰入支出	1,200,000	0	-1,200,000	0.0%	※年度末精算	
加盟学協会分担金支出	50,000	0	-50,000	0.0%		
国際科学技術コンテスト協賛金支出	50,000	0	-50,000	0.0%		
雑費	50,000	13,915	-36,085	27.8%	振込手数料等	
予備費	0	0	0			
支出合計	11,096,200	3,092,672	-8,003,528	27.9%		
次期繰越金	19,214,831	25,983,234	6,768,403	135.2%		
合計	30,311,031	29,075,906	-1,235,125	95.9%		

貸借対照表
(2022年1月31日現在)

(単位：円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産		流動負債	
郵便振替	8,019,025	前受会費	108,000
小口現金	2,215,808	未払金	2,290
普通預金	14,805,450	小計	110,290
現金(事務局)	16,806	正味財産	
未収金	136,435	名簿作成積立金	0
固定資産		役員選挙積立金	0
定期預金	10,000,000	INQUA対策積立金	300,000
		予備費積立金	8,800,000
		次期繰越金	25,983,234
		(前期繰越金	20,288,031)
		(当期収支差額	5,695,203)
		小計	35,083,234
合 計	35,193,524	合 計	35,193,524

財産目録
(2022年1月31日現在)

資 産 の 部 (単位：円)

科 目	摘 要	金 額
郵便振替	郵便局(年会費振込専用口座)	8,019,025
小口現金	編集書記手許金	2,215,808
普通預金	みずほ銀行早稲田支店	14,598,274
	三井住友信託銀行本店営業部	207,176
現金	事務局手持ち金	16,806
未収金	別刷代・超過頁代収入	136,435
流動資産合計		25,193,524
定期預金	三井住友信託銀行本店営業部	10,000,000
固定資産合計		10,000,000
合 計		35,193,524

負 債 の 部 (単位：円)

科 目	摘 要	金 額
前受会費	2022年度以降年会費	108,000
未払金	旅費交通費	2,290
合 計		110,290

正味財産の部 (単位：円)

科 目	摘 要	金 額
名簿作成積立金	名簿作成積立金	0
役員選挙積立金	役員選挙積立金	0
INQUA対策積立金	INQUA対策積立金	300,000
予備費積立金	予備費積立金	8,800,000
次期繰越金		25,983,234
	前期繰越金	20,288,031
	当期収支差額	5,695,203
合 計		35,083,234

【資料3】「第四紀研究」執筆要項（改訂案）

（2011年8月改訂，2012年1月改訂，2018年12月改訂，2019年1月改訂，2022年3月改訂，2022年3月から実施）

（略）

13. 要旨

- 13-1. 論説・総説・短報には，本文と異なる言語・・・・・・・・（以下略）
- 13-2. 本文と異なる言語の表題，著者名，要旨，・・・・・・・・（以下略）
- 13-3. 英語要旨には，すみやかに校閲するために・・・・・・・・（以下略）

~~~~~（以下を14.として追加）

14. 著者貢献の記述

共著論文においては，著者全員の氏名と貢献内容を引用文献の次に簡潔に記述する．英語論文では英語または日本語で記述する．

例）文京弥生：ボーリングコア観察と記載，全体総括，論文執筆を担当．国本一雄：珪藻分析と古環境の考察を担当．大町 栄：テフラの分析を担当．黒部五郎：年代測定を担当．

~~~~~（以下はすでに記述されており，見出し番号を15.～として修正）

15. 受理原稿の入稿

- 15-1. 入稿は次のいずれかで行う．
（表）
- 15-2. 電子ファイルの形式は，・・・・・・・・（以下略）
- 15-3. 解像度は，線画の場合に600～1200dpi，・・・・・・・・（以下略）

付則 本要項は2022年3月23日から実施する．

*改訂された執筆要項の全文はホームページの以下のサイトに掲載されています。

<http://quaternary.jp/journals/youkou.html>

◆ 2021年度第3回評議員会の案内

以下の予定で、第3回評議員会が開催されます。

日時：2022年6月18日（土）9:00～12:00

方法：Zoomを用いたオンライン会議

議事内容（予定）：2022年日本第四紀学会学会賞・学術賞・若手学術賞受賞者の決定、論文賞受賞者の決定、名誉会員候補者・功労賞受賞者の決定、その他。

評議員会メンバーの方には、後日メーリングリストにて詳細内容をご連絡いたします。なお、会長経験者・名誉会員の方には、今回は個別の案内を差し上げませんので、評議員会に参加される方は、6月15日（水）までに下記庶務委員会まで電子メールにてご連絡をお願いします。

メールアドレス：shomu(at)quaternary.jp（«(at)»の部分を@に変えて送ってください）

（庶務委員会）

★★★ 情報発信を希望される方へお願い ★★★

日頃から日本第四紀学会のコミュニティへ情報提供くださり、ありがとうございます。提供された情報の円滑な配信を目指して、広報委員会から皆様へ、以下のお願いを致します。

- (1) 情報発信の手段として、ML の積極的な使用をお願いします。
 - 1) メール本文に配信内容のタイトルと簡単な情報を書いて広報委員会アドレス (jaqua-koho(at)quaternary.jp) へご投稿ください。
メール本文の情報は常識的な長さでお願い致します。
 - 2) 広報委員会にて文言の微修正を行う、または投稿した方に情報の修正・追加をお願いすることがあります。
 - 3) イベント等の周知などで当該イベントの URL がある場合、その URL も載せてください (ただし上記の通り、メール本文にも簡単な情報も載せるよう、お願い致します)。
 - 4) 第四紀学にほとんど関連しないものについては配信をお断りすることがあります。
 - 5) 学会、研究集会のお知らせでも、第四紀学会の会員間で参加費等に不平等が生じるものは配信しませんので、ご了承ください。
 - 6) 添付ファイルは ML に配信致しません。
- (2) 第四紀通信への掲載依頼、日本第四紀学会 HP への掲載依頼も受け付けておりますが、基本的に、主催・後援イベントなど第四紀学会として会員に広く周知する必要があると認められる情報、「公募・助成」情報 (こちらは HP のみの掲載となります) 等に限られます。詳しくは広報委員会アドレス宛に、個別にご相談ください。
- (3) 第四紀通信の表紙用の写真 (または作成した画像) を受け付けています。詳細は第四紀通信 27 巻 6 号の巻末をご覧ください。
- (4) 第四紀通信は偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報をなるべく早く皆様にお届けできるように、奇数月下旬に版下が完成した段階でホームページに掲載していますので、ご利用ください。

日本第四紀学会広報委員会：那須浩郎・オブラクタ スティーブン フィリップ・丹羽雄一・竹下欣宏・小森次郎
広報書記：岩本容子・奥村公弥子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーの PDF を閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル

株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com 電話 : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176